

# STEREO POWER AMPLIFIER

## P-300L

ステレオ・パワー・アンプ

取扱説明書



Accuphase

このたびはアキュフェーズ製品をお買上げいただきまして誠にありがとうございました。  
 最高峰のオーディオ・コンポーネントを目指して完成されたアキュフェーズ製品は、個々のパーツの選択から製造工程、出荷にいたるまで数多くの厳しいチェックを受け、その過程及び結果が一台ごとの製品の履歴書として明細に記録され、社内に保管されております。このように完全な品質管理体制の中から生まれた本機は、必ずやご満足いただけるものと思います。末長くご愛用下さいますようお願い申し上げます。

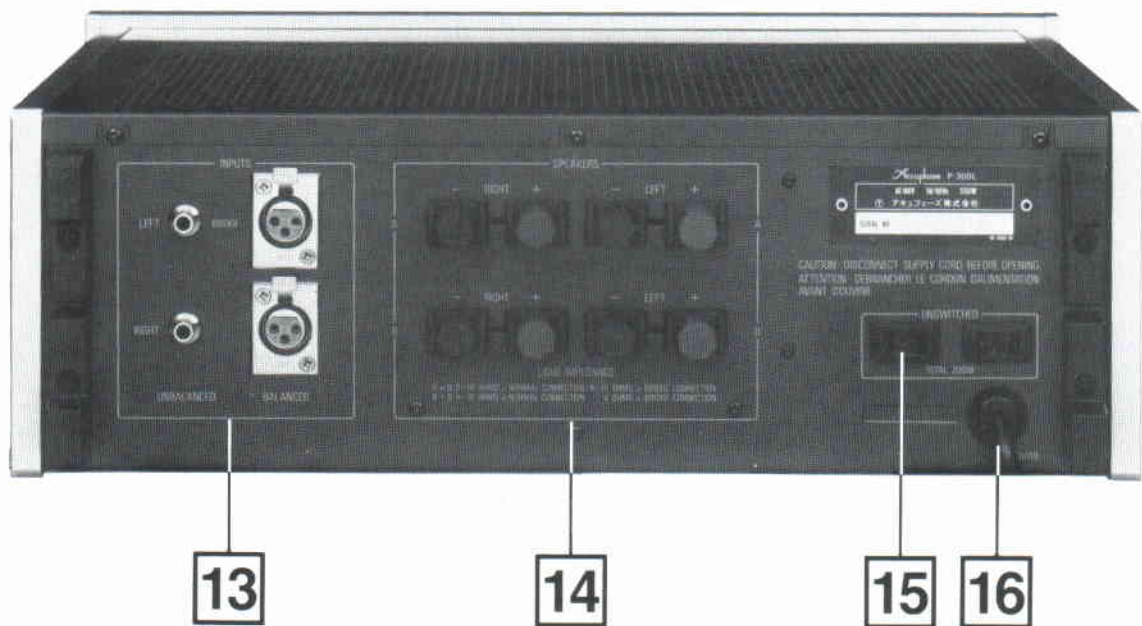
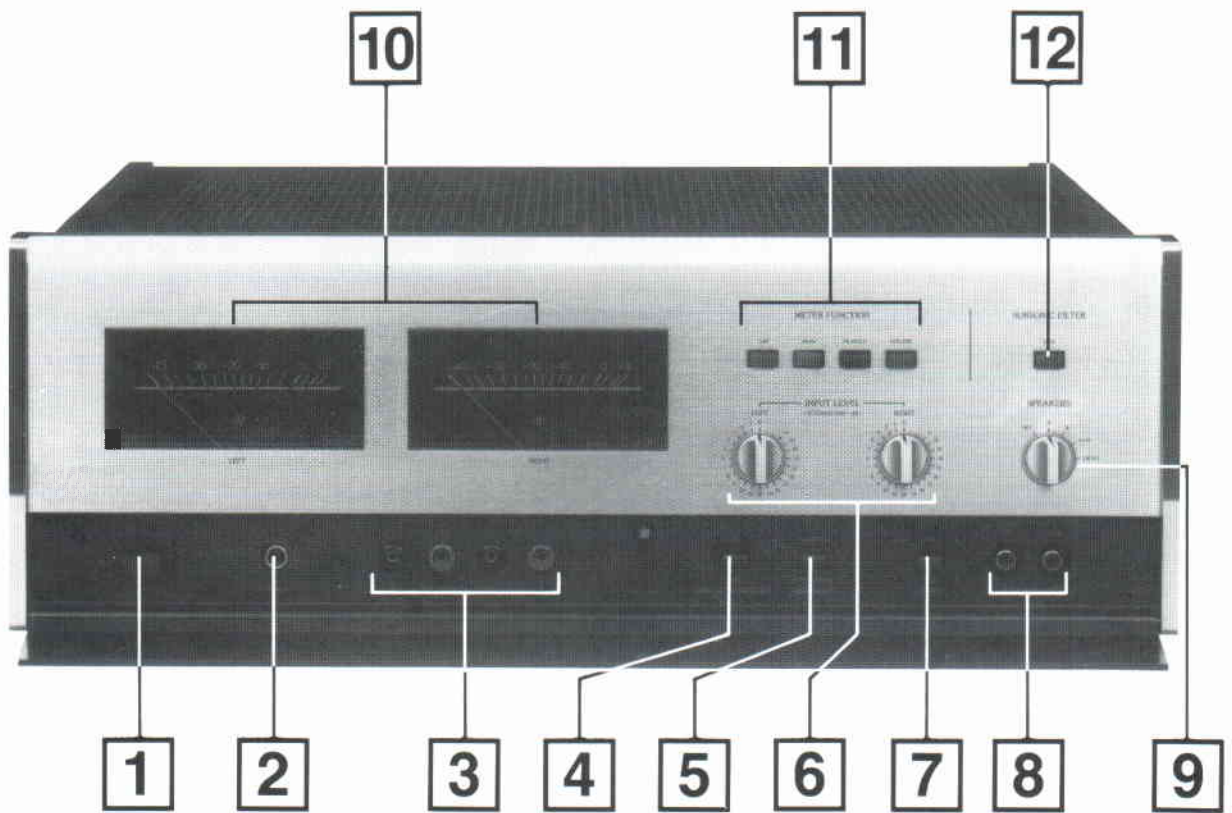
## お 願 い

お客様カードを付属していますから、これに必要事項をご記入のうえなるべく早く（お買上げ後10日以内）ご返送ください。お客様カードと引きかえに品質保証書をお届け申し上げます。

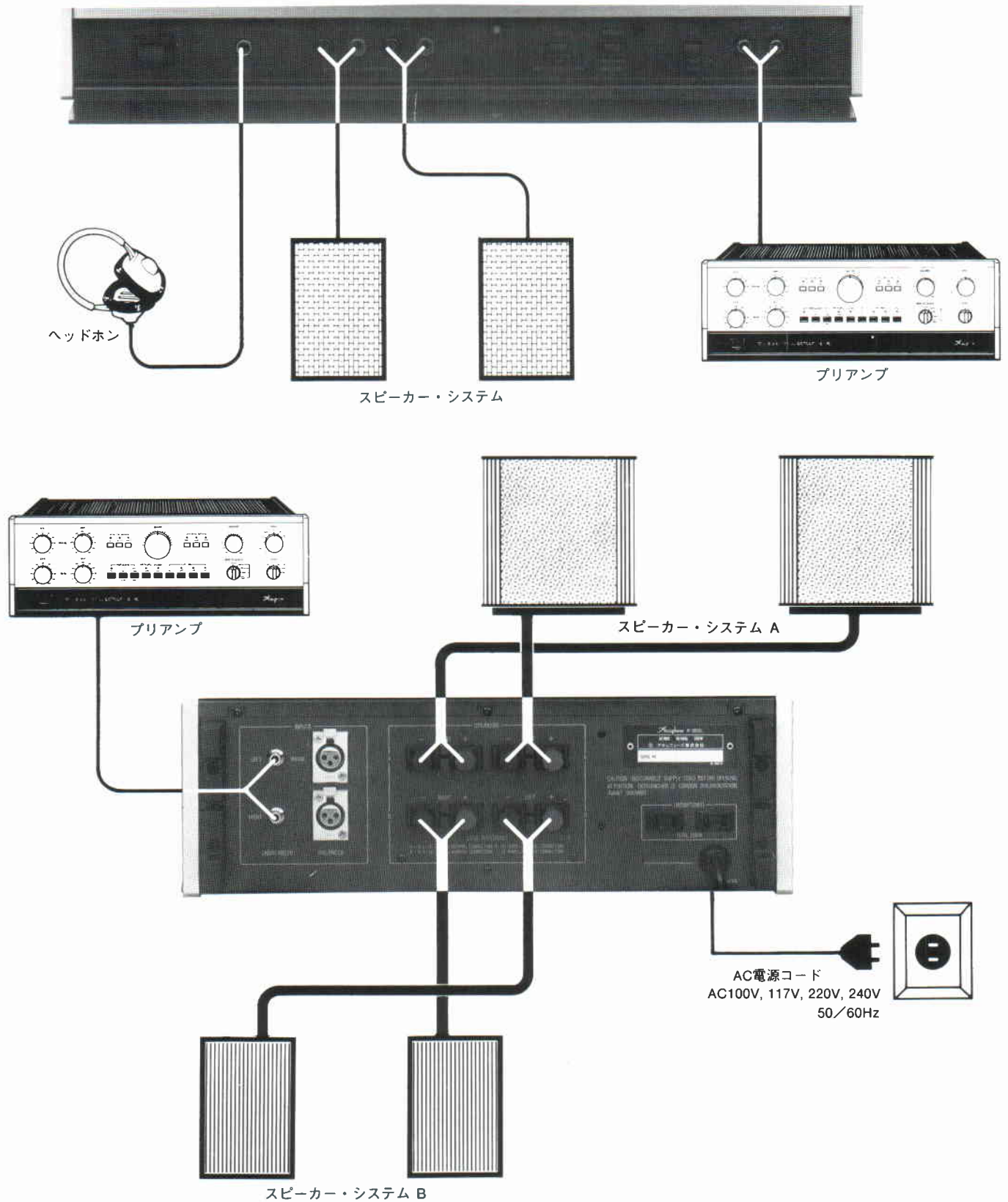
製品に関するお問い合わせ、または異常が認められるときは弊社、品質保証課または、お求めの専門店へ、直ちにご連絡くださいますようお願い申し上げます。

## 目 次

|             |    |
|-------------|----|
| 接続図         | 2  |
| 特長          | 3  |
| 各部の動作説明     | 4  |
| ブリッジ接続      | 8  |
| ご注意         | 9  |
| ブロック・ダイアグラム | 10 |
| 保証特性        | 11 |
| 特性グラフ       | 12 |



# 接続図



# 特長

## ■5-パラレル・プッシュプル出力段で $8\Omega=170W/ch$ 、 $2\Omega=300W/ch$ を保証

出力段は  $P_c$  (コレクター損失) = 100W のトランジスター 10個による 5-パラレル構成で、 $P_c$  の総計は 1,000W に相当します。これらを大型のヒートシンクにマウントし、十分な放熱を行なうことにより、 $170W/ch$  ( $8\Omega$  負荷、20~20,000Hz、ひずみ率 0.01% 以下) の出力を得ています。

スピーカーは周波数によってインピーダンスが大幅に変動し、製品によっては公称インピーダンスの半分以下になるものもあります。このようなスピーカーに対してリニアに電力を供給するためには、低インピーダンス負荷に対しても十分な出力を送り出せるパワー・アンプで駆動しなければなりません。P-300L は、大電力出力段と強力な電源により、 $2\Omega$  という低インピーダンス負荷に対しても入力信号に忠実な信号を送り出すことができます。 $2\Omega$  負荷時の定格出力は  $300W/ch$  を保証します。

出力段における小信号時のひずみは音質を阻害する最大の敵です。主に PNP, NPN トランジスターによって構成されるプッシュプル回路の動作の「継ぎ目」が不連続になったり、片側のトランジスターが完全にカットオフになるために発生します。本機ではそのような不具合が発生しないように、ノンスイッチング設計を施し、大出力アンプでありながら、ローレベルの美しさは抜群です。

## ■極限的なリニアリティ、高域特性、そして小信号レベルの低ひずみ率を実現した「カスコード・プッシュプル+MOS FET カスコード・プッシュプル」のドライブ段

リスナーとスピーカーが近接しているために、家庭用のアンプは S/N と共に特に小出力時の質が問われます。本機は徹底したローレベル特性重視設計が施されています。

出力段は前述の通りノンスイッチングひずみ設計でこれを解決しました。しかし、これを駆動する前段は大振幅、大電流が要求されるため、この段の設計がパワー・アンプのキーポイントになります。本機のドライブ段は、幾多のパワー・アンプでその優秀性が実証されている「パワー MOS FET」を使用、しかも極限的な高域特性をもつ「カスコード・プッシュプル」で構成されています。更に MOS FET ドライブ段に信号を振り込むプリドライブ段も「A 級カスコード・プッシュプル」とし、素特性を飛躍的に改善しています。

## ■DC サーボ直結方式

本機のように入力コンデンサーを取り去った、完全な直結構成のアンプでは、直流までも増幅してしまい、DC (直流) 漏れのあるプリアンプと併用した場合、スピーカーを破損してしまうこともあります。これを防止するために本機では、

DC サーボアンプで直流帰還をかけ、直流を遮断するとともに、温度変化によるアンプ自体の DC ドリフトも安定化させています。

## ■信号ケーブルを延長しても誘導雑音を排除するキャノン・コネクターによる本格的な平衡型入力を装備

RCA タイプ・フォノジャックによる入力インピーダンス  $20k\Omega$  の一般的な不平衡型入力と、放送局や業務用の機器で広く使われている、本格的な  $600\Omega$  平衡入力を装備しております。

## ■ブリッジ接続により $500W/8\Omega$ 、 $600W/4\Omega$ のハイパワー・モノフォニック・アンプ化

ステレオ・パワー・アンプの各チャンネルを一つの素子と見做し、これらをプッシュプル駆動することにより大きな出力を取り出すことができます。P-300L にはブリッジ接続回路が内蔵されており、スイッチの操作で簡単に  $500W$  ( $8\Omega$  負荷) のモノフォニック・アンプに早変わりします。これにより一段と量感豊かな再生音を期待することができます。なお、ブリッジ接続時の利得は通常のステレオ時と合わせてあります。

## ■ホールド機能付ピークパワー・メーター

出力計は対数圧縮型ピークパワー・メーターで、dB 目盛とともに、 $8\Omega$  負荷ステレオ仕様時の出力を直読できます。またメーター・ファンクション切替スイッチにより、音量感にはほぼ比例したボリューム・レベルとピークレベル指示の切り替えが可能です。更にピークレベルを一層監視しやすくする「ピークホールド」もでき、3秒間のサンプリング周期でその間のピーク値を保持します。

## ■豊富な入出力端子

P-300L は出力 3 系統、入力 3 系統を切り替えて使用することができます。そのうちの 1 系統ずつをフロントのサブパネル内に設け、スピーカーの比較試聴やその他の機器のテストのための便利を図っています。

# 各部の動作説明

## 1 POWER

### POWER——電源スイッチ

押し込んだ状態で電源が入り、再び押すと切れます。電源を入れてから回路が安定するまで、約6秒間はミュート回路が動作していますので出力はありません。ミュート回路動作中はパワー・メーターの照明ランプが暗く、解除になると同時に明るく点灯します。

## 2 PHONES

### PHONES——ヘッドホン出力ジャック

ステレオ・ヘッドホンで聴くときに、このジャックにヘッドホンのプラグを差し込んでください。インピーダンス4~100Ωのヘッドホンをご使用ください。ヘッドホン・プラグを差し込んでも本機の3系統のスピーカー端子の信号は切れませんので、ヘッドホンだけで聴くときには、**9** SPEAKERS スイッチをOFFにしてください。

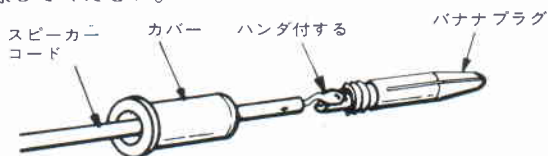
また、“ブリッジ接続”にしてモノフォニック・アンプとして使用するときは、本機に入力した信号がヘッドホンの左右スピーカーに逆位相で入力されますので注意してください。

## 3 SPEAKERS FRONT

### SPEAKERS FRONT——フロント側スピーカー端子

本機の出力をリアパネル**4**のスピーカー端子と同じように取り出せる大変便利な出力端子です。この端子にスピーカーを接続するときは、付属のバナナプラグに下図のように、スピーカー・コードをハンダ付して、この端子に差し込んで**9** SPEAKERS スイッチを“FRONT”にしてください。

ブリッジ接続にしてモノフォニック・アンプとしてご使用のときは、この端子のLEFT (+) とスピーカーのプラス (+), RIGHT (+) とスピーカーのマイナス (-) 端子を結線してください。



バナナプラグ付コードの作り方

## 4 BRIDGE CONNECTION

### BRIDGE CONNECTION——ブリッジ接続回路 ON/OFF スイッチ

P-300L を500W (8Ω負荷) のモノフォニック・ハイパワー・アンプとして使うときはこのスイッチをONにします。モノフォニック・アンプとして使うときはスピーカーの接続が変わります。ステレオ・アンプとして使用しているときに“ON”にすると、左右のスピーカーの位相が逆相になりますので注意しましょう。“ブリッジ接続”については8ページに詳細な説明があります。

## 5 REAR INPUT

### REAR INPUT——リアパネル入力端子、平衡/不平衡入力切替スイッチ

リアパネル**4**の入力端子へプリアンプの出力を接続するとき、通常RCAタイプのピンプラグ（一般のオーディオ機器に使用しているもの）付ケーブルを使用するときはUNBALANCED（不平衡）側、業務用機器や一部の高級プリアンプが装備している600Ω平衡出力を本機で受けるときは、このスイッチを押してBALANCED（平衡）側にして、キャノン・コネクターへ信号ケーブルを接続します。

600Ω平衡ラインは、信号ケーブルを長く引き回すときなど、外来誘導を受けにくく、抜群の効果を発揮します。

## 6 INPUT LEVEL

### INPUT LEVEL——入力レベル調整

本機へ入力する信号のレベルを調整するつまみです。いいかえると、LEFT（左）チャンネル、RIGHT（右）チャンネルの出力レベルを調整するもので、右まわしで出力が増大します。最大“0”から左へまわして“20”の位置（-20dB減衰）まで1dBステップになっています。通常は最大“0”でご使用ください。マルチアンプ・システムにこのアンプをご使用のときなどのレベル調整に有効です。

ブリッジ接続でモノフォニック・アンプとして使うときは、LEFT（左）チャンネル側のつまみでレベル調整をしてください。RIGHT（右）チャンネル側のつまみは無関係になります。

ブリッジ接続にしたときも、P-300L はアンプのゲインが変わりませんので、マルチアンプ・システムの中に使っている P-300L を“ブリッジ接続”に切り替えるときでも、レベル合わせの必要がありません。

## 7 INPUT

### INPUT——入力端子切替スイッチ

このプッシュボタン・スイッチは右にあるフロント側の入力端子とリアパネル④の入力端子を切り替えるスイッチで、スイッチが手前にある“REAR”の状態ではリアパネル④の入力端子からの信号がアンプに入力され、押して“FRONT”にしますと、前面の入力端子から本機へ信号を入力できる便利な機構です。リアパネル側で平衡（BALANCED）入力側を使っているときも、このスイッチを“FRONT”に切り替えますと、接続がはずれます。

## 8 INPUT FRONT

### INPUT FRONT——フロント側・入力端子

入力端子切替スイッチを“FRONT”にしたとき、リアパネルの入力端子とまったく同じように、信号を入力することができます。

ブリッジ接続にしてご使用になるときは、この入力端子の“LEFT”へ入力してください。

## 9 SPEAKERS

### SPEAKERS——スピーカー切替スイッチ

リアパネル④のスピーカー端子 A、B 及びフロント側のサブパネル内③スピーカー端子に合計 3 組のスピーカーを接続することができ、それらを選択するためのスイッチです。

“A”、“B”及び“FRONT”では、それぞれのポジションの 1 組のスピーカーを選択することができ、“A+B”では 2 組のスピーカーを同時に鳴らすことができます。

A と B は並列接続になっていますので“A+B”の位置で 2 組のスピーカーを同時に鳴らすときは、スピーカーのインピーダンスが 4 Ω 以上のものを接続してください。

## 10 POWER LEVEL METER

### POWER LEVEL METER——パワー・レベル・メーター

METER FUNCTION スイッチでピークレベルとボリューム・レベル指示を切り替えてご使用になれます。

“PEAK”レベル指示は、きわめて短時間のうちに振幅や周期が変化している音楽や音声信号のピーク値をメーターが表示するような回路になります。したがって瞬時のピーク値を読み取りやすくするために、メーター指針の立上り時間にくらべて帰りの時間が遅くなっています。

更に、瞬時のピーク値を一層読み取りやすくするために、METER FUNCTION スイッチを“PK HOLD”にしますと、約 3 秒間のサンプリング周期をもつピークホールド回路がピーク値を保持します。ピーク値は約 3 秒間隔で自動的にリセットされ、その間のピーク値を次々に表示して行きます。

ピークレベル指示のときのメーター指針の動きは、レコードなどプログラム・ソースにノイズがあったり、パルス性の信号が多くふくまれているものでは聴感上の音量感と多少違った感覚を受けることがあります。この点“VOLUME”レベル指示は、音楽や音声信号の音量感と比例する、VU 計と同じような指針の動きをしますので、ピークレベルで監視しているときのように、聴感上それほど音量感がないときにも指針が振れる、というようなことはありません。実際のピーク値は 5 ~ 8 dB プラスした値になります。

メーター・スケールは出力レベルを dB で表示するとともに、8 Ω 負荷時のワット数が直読できるようになっています。したがって、8 Ω 負荷のときは、正弦波を加えて 0dB=170W、-10dB=17W、-20dB=1.7W となります。4 Ω 負荷のときは、0dB=340W として、-10dB=34W、-20dB=3.4W というように直読目盛の 2 倍の値、16 Ω 負荷のときは、0dB=85W、-10dB=8.5W、-20dB=0.85W と直読目盛の 1/2 の値が出力パワーとなります。

ブリッジ接続で使用しているときは、LEFT、RIGHT 両方のメーターが同一の指示をします。スピーカーに供給されるエネルギーはメーターの指示値の 6 dB アップ（パワーは 4 倍）になります。直読目盛の 4 倍の値が実際の出力です。この値はスピーカーのインピーダンスが 8 Ω の場合で、16 Ω の場合はメーターの指示値の 3 dB アップ、直読目盛の 2 倍になります。以上の出力は正弦波を入力したときのことで、音楽や音声信号のようにパルス性の波形や非対称波形が入力された場合には、メーターの左右の指針は同一の指示値を示しません。

## 11 METER FUNCTION

### METER FUNCTION——メーター機能切替スイッチ

〈OFF〉 このプッシュ・スイッチを押したときは、メーター回路がOFFになりますから、パワー・メーターの指針は振れません。

〈PEAK〉 赤色の“PEAK”を押したときは、瞬時に変化する音楽や音声信号のピーク値をメーターが表示します。このプッシュボタンは押し込んでもロックしません。

〈PK HOLD〉 パワー・メーターの表示する値を読み取りやすくするために約3秒間のサンプリング周期で、その間のピーク値を指針が保持します。ピーク値は約3秒間隔で自動的にリセットされます。

〈VOLUME〉 このポジションではメーター指針が、実際の音量感に比例した、いわゆるVU計としての動作をします。

## 12 SUBSONIC FILTER

### SUBSONIC FILTER——サブソニック・フィルター

このスイッチは押したときに“ON”となり、再び押すと手前に出てOFFです。

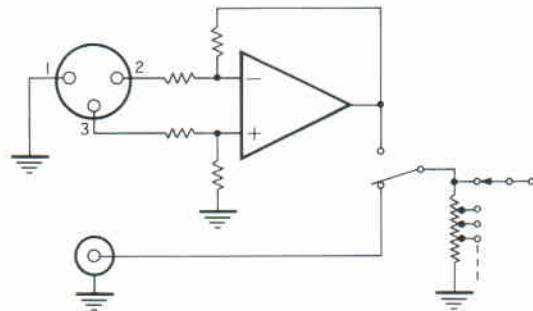
サブソニック・フィルターは可聴帯域外の超低域10Hz以下を18dB/octという急峻な特性でカットし、超低域ノイズの可聴帯域内への悪影響を取り除くことができます。レコードに大きな反りがあったり、超低域の振動によりウーファーがゆれたりするときに大変有効です。

## 13 INPUTS

### INPUTS——入力端子

RCAタイプ・フォノジャックが入力インピーダンス20kΩの不平衡入力、キャノン・コネクターは600Ω平衡入力になっており、プロフェッショナル・ユースの機器との接続を容易にしております。接続関係は図に示す通りです。フロントのサブパネル内図REAR INPUTスイッチで不平衡（UNBALANCED）入力と平衡（BALANCED）入力を切り替えてご使用ください。信号ケーブルを不平衡入力と平衡入力の両方へ、他の機器から同時に接続しますと、誘導雑音を発生する場合がありますからおやめください。

なお、ブリッジ接続にしてモノフォニック・アンプとして使うときは“LEFT”側入力端子から信号を入力してください。



## 14 SPEAKERS

### SPEAKERS——スピーカー端子

本機を通常のステレオ・アンプとしてご使用になるときは、リアパネル側“A”，“B”端子に2組のスピーカー、フロント側に1組のスピーカーを接続することができます。それぞれの端子へ接続したスピーカーはフロント・パネル図SPEAKERSスイッチで選択します。スピーカー切替スイッチを“A+B”の位置にして2組のスピーカーを同時に鳴らすとき、また、ブリッジ接続にしてモノフォニック・アンプにしたときなどは、次のように、接続可能なスピーカーのインピーダンス（アンプの負荷インピーダンス）が変わりますのでご注意ください。

〈通常のステレオ・アンプとして使用するとき〉

- “A”，“B”または“FRONT”を単独で使用  
負荷インピーダンス：2～16Ω
- “A+B”で同時に2組のスピーカーを使用  
負荷インピーダンス：4～16Ω

〈ブリッジ接続にして使用するとき〉

- “A”，“B”または“FRONT”を単独で使用  
負荷インピーダンス：4～16Ω
- “A+B”で同時に2組のスピーカーを使用  
負荷インピーダンス：8～16Ω

また、ブリッジ接続にしたときは、LEFT(+)をプラス端子、RIGHT(+)をマイナス端子としてスピーカーに接続し、(-)側には何もつながらないようにしてください。“ブリッジ接続”については8ページに詳細な説明をしております。



## 15 UNSWITCHED

### UNSWITCHED——電源スイッチに連動しないコンセント

本機の電源コードが AC コンセントに接続されている場合、電源スイッチの ON/OFF に関係なく、他の機器への電源を供給することができます。接続する機器の消費電力が 200W を越えないように注意してください。

## 16 AC 電源コード

### ■AC 電源の極性について

室内のコンセントは大地に対して極性を持っています。アンプの AC プラグにもこのような極性があり、室内の AC コンセントとアンプの極性を合わせた方が、音質上良い結果を得ることができる場合があります。

P-300Lは電源コードのプラグの片側に“W”の刻印が打たれています。この W 側が接地側「W 極」になっていますので、室内コンセントの極性がわかっている場合は、互いに合うように接続してください。なお、この極性は合わせなくても実用上問題になることはありません。

室内コンセントの極性は一般に、向って左側（穴が右に比べて大きい）が「W 極」ですが、工事をした時期、工事会社によって守られていない場合も多いので、不明のときはチェッカーで確認をする必要があります。

本機の UNSWITCHED コンセントも向って左側が「W 極」になっています。

### ■AC 電源電圧の変更とヒューズについて

P-300L は使用できる電源電圧を 100V、117V、220V および 240V の 4 段階に切り替えられます。P-300L の底板側、電源トランスの近くにあるジャンクション・ターミナルで接続変更をする必要があります。また、電源 1 次側のヒューズはトッププレートをはずすとリアパネル中央付近についていますが、電源電圧の変更やヒューズが切れて電源が入らなくなったときは、弊社の品質保証課、またはお求めの専門店へご連絡くださいますようお願いいたします。

# ブリッジ接続

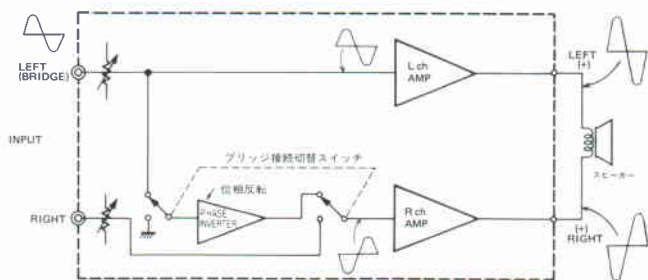
同じ2台のパワー・アンプの入力に同一信号を入れて、出力側のマイナス(-)極同士を接続し、それぞれのプラス(+)極から信号を取り出します。このままの状態では、出力はゼロになってしまいます。そこで入力側で1台のアンプへ入力する信号の位相を反転し、もう1台のアンプへはそのままの信号を入れますと、2台のアンプへは逆位相の信号が入ったことになり、出力にもそのまま逆位相の信号が現われます。その結果、1台のときの2倍の信号電圧が負荷(スピーカー)に加えられることとなります。このように電圧が2倍になりますと電力は4倍、つまり4倍のパワーが得られることになります。

しかし、現実のアンプでは、回路内の損失や、出力トランジスタの電流容量の制限を受けますので、1台で使用するときの4Ω負荷で出し得る2倍がブリッジ接続をしたときの8Ω負荷の出力になります。

このように2台のパワー・アンプを1台のアンプとして接続することを“ブリッジ接続”と称し、信号の位相処理をする回路が“ブリッジ接続回路”です。ブリッジ接続回路が内蔵されていないアンプでは、この回路のアダプターが必要です。

## ■P-300Lのブリッジ接続について

本機はステレオ・パワー・アンプですから2台のパワー・アンプがすでに入っております。したがって、下図のように内蔵されているブリッジ接続回路がスイッチを切り替えるだけで作動し、500W(8Ω負荷)のハイパワー・モノフォニック・アンプになります。



## 〈ブリッジ接続に切り替えたとき〉

### ■負荷インピーダンスは実際の負荷の半分になる

アンプ1台に対する負荷インピーダンスは実際の負荷の半分になります。インピーダンス8Ωのスピーカーを接続したときは、1台あたり4Ωのスピーカーが接続されたときと同じこととなります。

P-300Lをブリッジ接続にしたときは、4Ω以上のインピーダンスのスピーカーをご使用ください。また、スピーカー切替スイッチを“A+B”にして2台のスピーカーを同時に

“BRIDGE CONNECTION”のプッシュ・スイッチをON/OFFするとき、必ず電源スイッチを切ってください

鳴らすときは、“A+B”ポジションが並列接続になっているために、8Ωよりも低いインピーダンスではアンプにとって過負荷になります。

### ■増幅度について

一般にブリッジ接続に切り替えると、スピーカーに加わる電圧が2倍になります。言い替えると、増幅度が2倍になったことと同じで、デシベルで表現すると“6dBアップ”になります。P-300Lは使い易さを考慮して、増幅度が変わらない設計になっています。したがって、プリアンプの出力レベルやP-300Lの入力レベルが変わらなければ、ブリッジ接続にしても音量レベルは変わりません。

### ■ダンピング・ファクターは半分になる

2台のアンプの出力回路が直列に接続されることになり、アンプの出力インピーダンスが2倍になりますので、ダンピング・ファクターは半分になります。しかし、もともとソリッドステート・アンプのダンピング・ファクターは高いので実用上はまったく支障ありません。

### 〈接続方法〉

“BRIDGE CONNECTION”のプッシュ・スイッチを“ON”にしてください。

### ■入力信号はINPUT端子の“LEFT”へ入れてください。

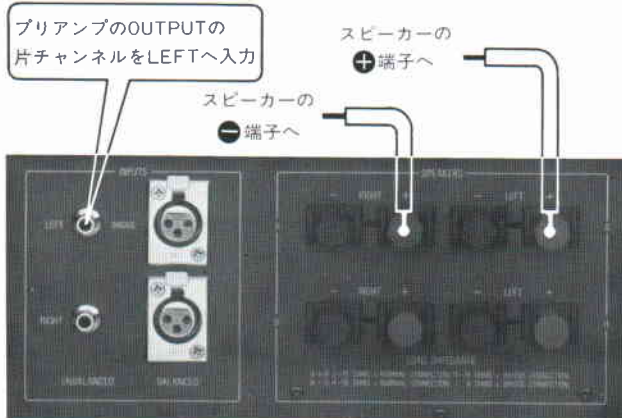
■SPEAKERS端子のLEFT(+ )とスピーカーのプラス(+), RIGHT(+ )とスピーカーのマイナス(-)端子を接続してください。

(すべてのSPEAKERS端子とも同じです。)

■SPEAKERS端子(-)側には何もつながないようにしてください。

ブリッジ接続にしたときのパワー・レベル・メーターの指示については5ページに詳細な説明があります。

P-300Lはモノフォニック・アンプになるため、片チャンネルの接続を示しています。



## ご注意

### ■パワー・アンプの空気孔はふさがないようにしてください

ハイパワー・アンプはかなりの熱が出ます。回路内を大電流が流れますので温度上昇も相当なものになりますから、アンプのまわりにあけてある空気孔の近くに通風をさまたげるようなものを置いたり、狭い通気の悪い場所へセッティングすることは絶対にさけてください。また、直射日光のあたる場所でのご使用もさけてください。

別売のローズウッド・キャビネット A-8 型に入れたときのクーリングについては十分に検討されておりますので、まったく支障はありません。

### ■本機の上とか下に直接プリアンプやパワー・アンプなどを重ねて使用することはさけてください

冷却効果をさまたげるとともに、高利得のプリアンプのときには電磁誘導を受けてハムを発生したり、チューナーでは不安定な動作の原因になることがあります。

### ■電源はプリアンプの VOLUME を下げてから切ってください

電源を切るときには必ずプリアンプの VOLUME をさげてから切ることを習慣づけましょう。

パワー・アンプに信号を通したままの状態でも電源を OFF にすると、ミュート回路のリレー接点をいため、接触不良の原因になります。アキュフェーズ製品のパワー・アンプに使用しておりますリレーは、電流容量も大きく厳選したのですが、VOLUME を下げるにより、リレー接点の状態を常にベスト・コンディションに保てるわけです。パワー・アンプのレベル調整ツマミをその都度下げる必要はありません。

### ■レコード・プレーヤーなどを操作するときは、必ずプリアンプの VOLUME を下げてから行なってください

ハイパワー・アンプを使用して、カートリッジをレコード盤面から上げたり下げたりするとき、聴感上それほどの音圧を感じなくても、スピーカーには超低域の大電流が流れて、スピーカーを破損する場合があります。

必ずプリアンプの VOLUME を下げてから操作してください。

### ■入出力コードを抜き差しする場合は、必ず電源を切ってから行なってください

特に RCA タイプのピンプラグ（通常のオーディオ機器に使用されているもの）をジャックから抜き差しするときは（+）側、（-）側ともに同時に入ったり切れたりせず、（+）側が先に入ったり、残ったりするために一瞬（-）側が浮い

た状態になって大きなショック・ノイズを発生し、スピーカーを破損する原因となることがあります。

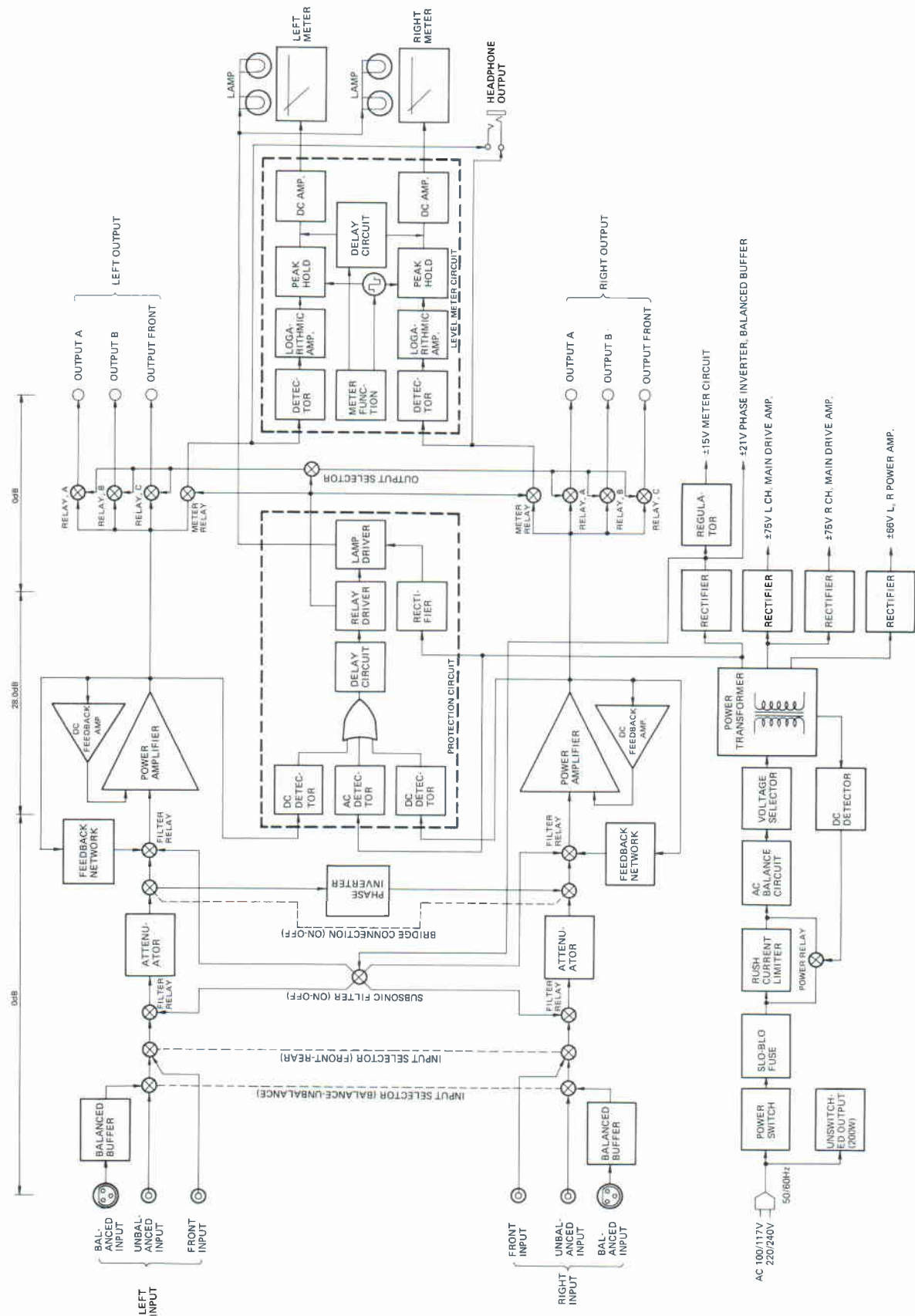
プリアンプやパワー・アンプなどの入出力コードを抜き差しする場合は、必ず電源を OFF にしてから行なってください。

### ■2台以上のアンプ、スピーカーを切り替えて使用するとき

切替スイッチを使って、2台以上のアンプ、スピーカーなどを切り替えてご使用になる場合は、切替スイッチ内でアース側が共通になっていますとアンプの異常発振を誘発する原因になります。切替スイッチのアース側が共通になっていないことを確認の上でご使用ください。

ブリッジ接続にした場合は、スピーカーの両極は、アンプのマイナス側（シャーシー）に対して常に電位をもっています。このためスピーカーまでの信号ケーブルは両極共に独立した状態でないと、過電流が流れます。したがってスピーカー切替スイッチを使用するときは、両極共に完全に独立して切り替わるタイプのものご使用ください。共通接続になったスイッチでは過電流が流れ、アンプを破損することがあります。

# ブロック・ダイアグラム



# 保証特性

## 連続平均出力 (20~20,000Hz ひずみ率0.01%)

### ステレオ仕様時 (両チャンネル同時動作)

|         |       |
|---------|-------|
| 300W/ch | 2Ω負荷  |
| 250W/ch | 4Ω負荷  |
| 170W/ch | 8Ω負荷  |
| 85W/ch  | 16Ω負荷 |

### モノフォニック仕様時 (ブリッジ接続)

|      |       |
|------|-------|
| 600W | 4Ω負荷  |
| 500W | 8Ω負荷  |
| 340W | 16Ω負荷 |

## 全高調波ひずみ率

### ステレオ仕様時 (両チャンネル同時動作)

0.01% 2~16Ω負荷

### モノフォニック仕様時 (ブリッジ接続)

0.01% 4~16Ω負荷

## IM ひずみ率 (EIA)

0.003%

## 周波数特性

|                          |            |
|--------------------------|------------|
| 20~20,000Hz              | +0, -0.2dB |
| (連続平均出力時, レベルコントロール MAX) |            |
| 0.5~250,000Hz            | +0, -3.0dB |
| (1W出力時, レベルコントロール MAX)   |            |
| 0.5~100,000Hz            | +0, -3.0dB |
| (1W出力時, レベルコントロール -6dB)  |            |

## ゲイン

|        |                      |
|--------|----------------------|
| 28.0dB | ステレオ・モノフォニック<br>仕様時共 |
|--------|----------------------|

## 負荷インピーダンス

|       |                         |
|-------|-------------------------|
| 2~16Ω | ステレオ仕様時                 |
| 4~16Ω | モノフォニック仕様時 (ブリ<br>ッジ接続) |

## ダンピング・ファクター (EIA 50Hz)

|     |                        |
|-----|------------------------|
| 300 | ステレオ仕様時                |
| 150 | モノフォニック仕様時(ブリッ<br>ジ接続) |

## 入力感度 (8Ω負荷)

### ステレオ仕様時

|       |             |
|-------|-------------|
| 1.5V  | 連続平均出力時     |
| 0.12V | 1W出力時 (EIA) |

### モノフォニック仕様時 (ブリッジ接続)

|       |             |
|-------|-------------|
| 2.5V  | 連続平均出力時     |
| 0.12V | 1W出力時 (EIA) |

## 入力インピーダンス

20kΩ不平衡/600Ω平衡

## S/N (A 補正)

|                    |        |             |
|--------------------|--------|-------------|
| 120dB              | 入力ショート | 連続平均出力時     |
| 100dB              | 入力1kΩ  | 1W出力時 (EIA) |
| (ステレオ・モノフォニック仕様時共) |        |             |

## ステレオ・ヘッドホーン

低出力インピーダンス型

適合インピーダンス: 4~100Ω

## サブソニック・フィルター

10Hz -18dB/oct

## 出力メーター

対数圧縮型 -40dB~+3dB及び出力直読目盛  
ピークホールド切替付

## 使用半導体

56Tr, 12FET 8IC, 78Di

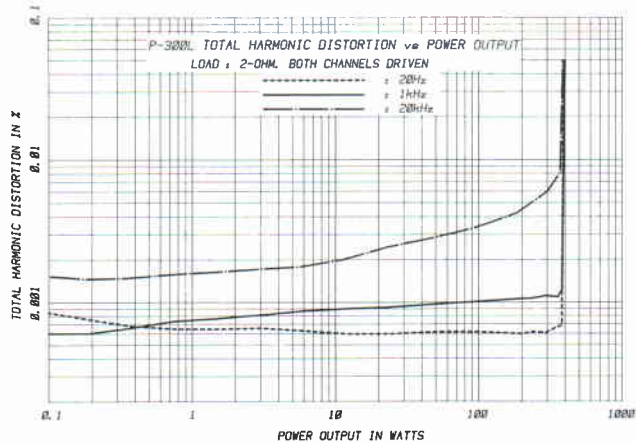
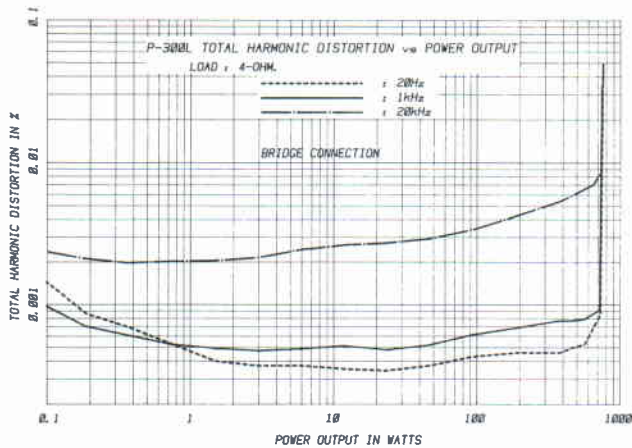
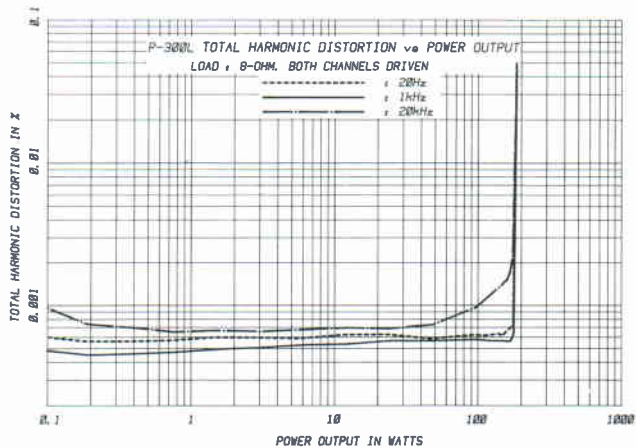
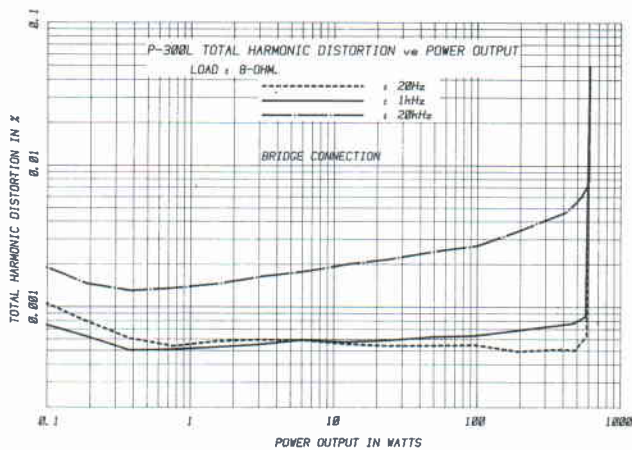
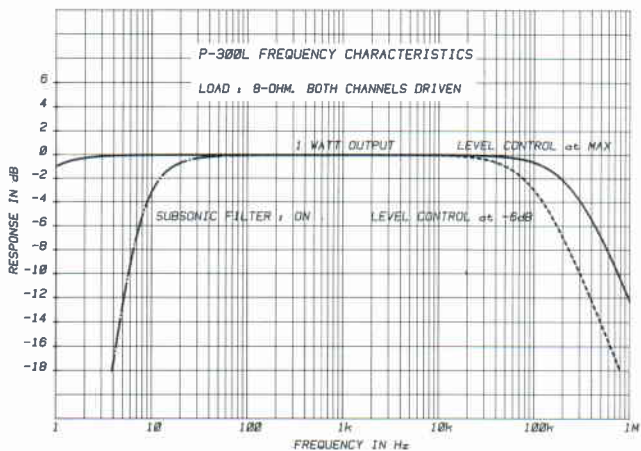
## 電源及び消費電力

|       |           |       |       |         |
|-------|-----------|-------|-------|---------|
| 100V, | 117V,     | 220V, | 240V, | 50/60Hz |
| 78W   | 無入力時      |       |       |         |
| 550W  | 電気用品取締法   |       |       |         |
| 560W  | 8Ω負荷定格出力時 |       |       |         |

## 寸法・重量

幅445mm×高さ160mm (脚含む) ×奥行373mm  
23.0kg

## 特性グラフ











Accuphase

ACCUPHASE LABORATORY INC.

アキュフェーズ株式会社

横浜市緑区新石川2-14-10

〒227 TEL(045)901-2771(代表)